

# 小麦の栽培管理について

今年の秋は好天に恵まれ、小麦の種作業が順調に行われました。良質な小麦を確保するため、以下のポイントに留意しましょう。

## 1 排水対策

小麦は生育期全般を通じて湿害を受けやすい作物です。特に登熟期に湿害を受けると、収量・品質の低下や「枯れ熟れ」が助長されます。

排水対策のポイントは「雨後に地表面に水が溜まったままにならないこと」です。その目安は、1日以内に滞水した水が引けることです。

### ①ほ場周囲に排水溝を設置

排水用の溝を作っていないほ場では、溝掘機等を使ってほ場の周囲に排水溝を設置し、排水口につなげま

しょう。

### ②排水溝の排水口の修理・点検

排水溝の崩れ、排水口への連結、排水口の掘下げ状況等を点検し、手直しを行いスムーズな排水に努めましょう。

## 2 追肥

小麦は、追肥することで収量、品質が向上します。茎立ち前の2月下

旬から3月上旬に追肥を実施しましょう。

「さとのそら」は、窒素成分で3kg/10a、「あやひかり」は2kg/10a当たり施用しましょう。

追肥の方法は、化成肥料を2回に分けて追肥する方法と、緩効性肥料で追肥を1回で行う方法の2通りがありますので、表1を参考にしてください。

## 3 雑草対策

小麦の生育期に雑草が発生した場合は茎葉処理剤(表2参照)を散布しましょう。

また、ほ場ごとの優占雑草や小麦の生育ステージを早めに確認し、適期に実施しましょう。

## 4 麦踏み

麦踏みは、根張りを良くし、耐倒伏性の向上や凍霜害防止等の効果があります。必ず行いましょう。

麦の3葉目が見え始めた頃から茎立ち前(3月中旬頃)までに、2週間程度の間隔をあげ、合計2~3回を目標に麦踏みを実施しましょう。

表1 「さとのそら」の追肥方法(例)

	肥料銘柄	施肥量(kg/10a)	
		1回目 (2月下旬~ 3月上旬)	2回目 (3月下旬~ 4月上旬)
2回に分けて追肥	化成肥料17-0-17	12	12
	硫安	10	10
	化成肥料14-14-14	14	14
1回で追肥	さとのそら追肥専用 (石灰窒素4.5%)	20	-

窒素成分 計3~4kg/10a施用

表2 小麦の除草剤

薬剤名	適用雑草名	使用時期	10a当り使用薬量	使用回数
ハーモニー75DF	一年生広葉雑草 スズメノテッポウ	は種後~節間伸長前	5~10g	1回
	一年生広葉雑草	節間伸長開始時期~穂ばらみ期 但し、収穫45日前まで	3~10g	
エコパートフロアブル	一年生広葉雑草	小麦節間伸長開始期まで (広葉雑草2~4葉期、ヤエムグラ2~6節期) 但し、収穫45日前まで	50~100ml	2回以内
バサグラン液剤	一年生雑草 (イネ科を除く)	生育期(但し、収穫45日前まで)	100~200ml	1回
MCPソーダ塩	一年生及び 多年生広葉雑草	幼穂形成期(但し、収穫45日前まで)	200~300g	1回

農薬は令和5年11月8日現在の農薬登録情報に基づいています。農薬を使用する際は、必ず使用農薬のラベルを確認しましょう。また、周辺作物への飛散防止に努めましょう。



お問い合わせ先

大里農林振興センター  
農業支援部  
熊谷市久保島1373-1  
TEL. 048-526-2210  
FAX. 048-526-2494

